

評価委員からの質問項目について

病院名等 阿南病院、阿南介護老人保健施設

対象の病院	質問項目	回答
本部・全病院	<p>地方独立行政法人化について</p> <p>(1)独法化の活用にあたって、最も取り組んだ課題は何か。また、その成果と問題点は。</p> <p>(2)独法化後の看護師確保の取組と成果は。</p>	<p>中期計画を定めて、年度計画により具体的な目標を掲げて、これらの進行管理を行うことにより、毎年成果に繋げてきている。</p> <p>また、人事面や予算面において、現状に即した中身のある予算執行等が迅速に対応ができ、地域医療の推進に寄与できたと思う。</p> <p>① 医事従事者の確保 当院においては、地域医療を推進するための医療スタッフの確保や技術の向上等が不可欠で、特に医師・看護師の確保が重要である。法人化後の採用については、一定の制度の中で各病院・施設長の判断で必要なスタッフを採用することができるようになったことから、ホームページや新聞広告・折り込み広告、各種就職ガイダンスへの参加、各関係学校への訪問などを実施するとともに、住環境についても宿舎・独身寮を整備して、スタッフ確保に努めた。</p> <p>医師不足はこの地域全体の問題で、直ぐには成果が出ていない状況である。現在も自治医科大学卒の医師の派遣を受けて診療を続けている状況である。看護師については、看護学生修学資金貸与制度の申込者を中心に新卒の看護師を毎年採用できるようになった。</p> <p>② 施設・設備の充実 築40年以上が経過した本館棟の改築工事が施工され、平成25年5月に免震構造でヘリポート付きの新本館棟が完成した。超高齢化地域における地域医療を推進する拠点病院として、また災害時にも医療機能が継続できる病院に生まれ変わった。</p> <p>改築に併せて、電カルテシステムを導入して平成25年10月から本稼働する運びとなった。</p> <p>このように施設等を充実することができ、今後も医療・保健・福祉の連携を深め超高齢化地域における在宅医療に力を入れて、より一層「信頼され、安心して暮らせる地域医療」を推進したい。</p> <p>《今後の課題》 採用状況を見ると、他病院への就職希望状況と比較するとまだまだ当院への希望は少ない状況である。</p> <p>今後も医療、保健、福祉の連携を強化した地域医療を推進して、当院の特徴を生かした運営をしてPRし、スタッフ確保に努めていきたい。</p> <p>法人化後に看護学生修学資金貸与制度が創設され、多くの希望者にこの制度を貸与し看護師確保に役立っている。また、看護師の採用試験が年5回実施され、随時早めに看護師を確保できる状況となっている。この状況から毎年新卒の看護師も採用できるようになった。</p>
	<p>(3)今後、看護師確保について、新規戦略で考えていることがあるか。</p>	<p>これまで実施している看護師募集の新聞への折り込み広告や各種ガイダンスへの参加、また各種学校への訪問等に加え、平成24年度から実施している他の急性期病院との交流研修など現職看護師のキャリアアップのための研修内容の充実、PRを図ることにより看護師確保につなげていきたい。</p>

<p>本部・全病院</p>	<p>収支結果について</p> <p>(1) 自院の収支結果をどのように思っているか。特に、県からの繰入金相当額がなかった場合の収支結果について、どのように思っているか。</p> <p>(2) 自院のレゾナードル(存在意義)を県民の方々にどのように説明されるか。</p>	<p>ア 経常損益が赤字へ 平成24年度の収支は、2年連続の黒字から赤字決算となったが、この原因としては、医業収益の減少が大きな要素で、次の要因で患者が減少したと考えられる。</p> <p>① 平成24年度は、前年9月まで10人体制であった医師が7名に減少(内科△2、泌尿器△1)し、泌尿器科については休診となってしまったこと。</p> <p>② 新本館棟改築工事のため外来診療を旧精神科病棟において実施していたことによる不便さ。</p> <p>イ 繰入金について</p> <p>① 当院では、診療圏が急峻な地形で超高齢化地域であり通院が困難な患者様が多いことから、無医地区へのへき地巡回診療や在宅診療(訪問診療・看護・リハビリ)に力を入れて診療を行い、また救急指定病院として一年365日24時間体制で患者様を受け入れており地域医療を守っている。</p> <p>これらの医療を行うための救急医療、保健衛生、へき地巡回診療などの不採算医療を継続していくためには、運営費負担金が地域医療を推進するには不可欠となっており、無ければ阿南病院の運営自体が成り立たないのが実情である。</p> <p>② 電子カルテシステムの導入には、オーダーリングシステムもなかった当院としては、情報共有による医療安全上役立つ。もちろん今後の地域連携の推進を図る上で大きく役立つこととなり、耐震化改築工事の施工においては、免震構造でヘリポート付きの病院建設は自分たちで計画したもの、救急患者の搬送に役立つとともに地震災害時における医療の拠点として生まれ変わった。</p> <p>ア 当院は、へき地拠点病院として昭和36年から無医地区への医療を提供し続けていること。</p> <p>イ 下伊那南部地域の超高齢化地域で、唯一の中核病院として医療・保健・福祉の連携による在宅医療を中心に地域医療の推進に努めており、病診連携により地域医療を守っていること。</p> <p>ウ 下伊那南部の救急指定病院として1年365日24時間受け入れ体制を整えていること。</p> <p>エ 当院長、地域の市町村長、診療所長、保健師長等医療・保健・福祉関係者で構成される「下伊那南部保健医療協議会」において、阿南病院のあり方等について定期的に意見交換するとともに、行政、医療関係者とも連携し地域医療の推進に努めている。</p>
---------------	---	---

	<p>(3)上の2つの問いに対する回答について、両者の間の整合性をどのように思われるか。</p>	<p>人口の減少と超高齢化が進む当地域は、今後各地域で顕在化する問題への対応のモデルケースとなり得る環境が整っているといえる。</p> <p>人口減少と高齢化が進む地域のモデルケースとなるよう、当院では当面3つの方策を進めることにより、投資対効果の整合性を図りたいと考えている。</p> <p>① 行政と連携した効率的な健康管理システムの構築 当院を健・検診の場として提供し、市町村等と連携した効率的な地域住民の健康管理システムを構築する。</p> <p>② 地域が求めている医師の育成 県の進める信州型総合医の育成について、機構が提案している「信州型総合医養成プログラム」のへき地医療を学ぶ場として、また、自治医科大、県の医学生修学資金貸与者などの医師がへき地医療を学ぶ場となるよう環境を整備する。</p> <p>③ 新たな高齢者医療への取り組み 当院の認知症患者については、一般診療の中で診ているのが実情であり、専門的な治療を受ける機会が無く、十分なケアが出来ない状況の老人が多数見受けられる。このため、早い時期から認知症の治療が行える環境を福祉と連携して提供する。</p>
<p>須坂病院</p>	<p>看護師等の確保について (1)院内保育所「カンガルーのぼっけ」の現在までの成果と、今後の改善点は。</p>	

病院名等 阿南病院、阿南介護老人保健施設

対象の病院	質問項目	回答
本部・全病院	<p>看護師確保対策について</p> <p>(1)採用に向けて種々の試みを努力されているが、継続に向けての取組(離職率を下げる)について、どのような具体策(勤務時間、勤務形態、家事・育児との両立のための方策など)が講じられているか。</p> <p>(2)潜在的看護師が全国で50万人以上いると言われていたが、再就職のための研修や労働環境整備の方策は講じられているか。</p> <p>(3)採用にあたって、給与体系、労働環境等、他と差別化してアピールする余地はないか。</p>	<p>毎年看護確保には苦勞しているが、当院では人間関係・人の繋がりから看護師を確保している状況も多い。ゆえに、家庭事情に併せた勤務が取れるように、配置場所の配慮、夜勤の選択・曜日の選択及び年休への配慮等について各セクションの代表が日々努力している。また、職場内での雰囲気づくり、特に困った時など相談できる体制づくりにも力を入れている。</p> <p>その他、キャリアアップのための他病院との交流研修を実施するとともに、住環境の整備するために宿舍等の整備にも力を入れて実施している。</p> <p>働きやすい職場づくりとして勤務条件を整えるためには、スタッフ確保が重要であるが、現状では十分確保できている状況ではない。</p> <p>看護協会が主催で実施している「再就職支援研修会」へ、地域の8病院も共催して企画し実施している。当院から再就職を希望する方の情報が入れれば紹介して参加してもらっており、参加した看護師1名を採用することができた。</p> <p>当院としても、再就職の方々の事情を考慮した勤務条件で働けるように配慮している。(パート採用、夜勤勤務の考慮等)</p> <p>地域事情を考慮した看護業務の体験、訪問看護やへき地巡回診療の看護業務の勤務をPRしたい。</p> <p>また、急性期病院にはない、医療・保健・福祉の連携による地域医療を推進する中での看護業務の体験、緩やかな医療(患者様との接する時間が長く取れる。)の体験ができる点のPRをしたい。</p>
須坂病院	<p>専門医療の提供について</p> <p>(1)地域医療・専門医療の提供に関し、種々努力をされているが、より専門化に向けて検討する余地はないか。</p>	